
三色

黒柘榴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三色

【Nコード】

N8628R

【作者名】

黒柘榴

【あらすじ】

3つの色をテーマにした短編小説三部作です

黒（前書き）

黒といえば、あなたは何をイメージしますか？

黒

くろ。

クロ。

黒。

気が付けば、俺の世界は異常なまでに黒かった。

目の前に翳している筈の、自分の手や腕が全く視認出来ないのだ。虚しいほど動きさえ伝わらない。

それ程の暗闇に、俺は覆われてしまっていた。

上下の感覚さえ、認知する事が許されない世界。

重力という、常識が微塵も感じられない世界。

ほんのひとすじの光も照らす事のない絶望の世界。

こんな所に長時間立ち尽くしていたら、気が触れてしまう。狂ってしまう。真人間でいられない。

そう考え、俺は兎にも角にも行動することにした。

足を出し歩を進めてみる、が意味をなさない。

どれだけ前進しても、同じ場所で足踏みをしているようにしか感じない。地面の感触だつてない。

どれだけの時間が経ってしまったのだろうか。

もう俺には我慢なんて出来なかった。耐えられない。駄目だ。意味がわからない。疲れた。眠い。

俺の脳を粘ついた漆黒の狂気がゆっくり包み込む。

そして不意に唇が動き不気味な言葉が漏れ始めた。

「うわ s b h やだもう d j ん ひ駄目だ帰り..... たいウザイヤめ..... てくれ五..... 月蠅いごめんなさい助け..... て殺亜 k v k してふざやねえ馬鹿だ..... ろうあ c 失 v b s ん 禁 f し

ゆうきよう差別 s c g 生ま j k れ変わった s d g s 腐ってやあ g ん
k がる d せ x g …… い面倒く …… さい許しぞ畜生が怖いよ泣きやー
きやか y くな可哀想に …… …… なハゲのくせ s ン荒く v g に女々し
v v いやつめ犯しん k しうえ l g 意や l ン c v m しばくぞ …… j h
しいいついにいついいたあああああいい l は ; g じよ s
ん ; 人間 j h m s d h b s m じ l 黒黒くロクロク碌々轆轤黒黒く轆
くろくろ w 「

黒（後書き）

次回、3月24日15時更新

赤（前書き）

赤といえば、あなたは何をイメージしますか？

赤

あか。

アカ。

赤。

学校から帰ると、家が燃えていた。始めは意味がわからなかった。母さんたちは？ 数秒間、僕は炎に包まれた自宅を呆然と眺めていた。

すると、中から人影が現れた。それは、気味の悪いほど真つ赤なレインコートを着て、真紅に塗られた般若の面を被り、チエーンソを唸らせた異常者だった。そいつは僕を見つけるなり、走って追いかけてきた。

僕は死ぬ気で逃げた。路地に曲がったところに半開きのドアを見つけた僕は迷わず飛び込んだ。

咄嗟に駆け込んだ部屋は、ほぼ赤いものに支配されている部屋だった。

赤いボール、りんご、赤い絵の具、さくらんぼ、タバスコ、赤い糸、紅のハイヒール、郵便ポスト、闘牛に使う布、消防車のミニチュア、帝国軍のライ セーバー、サンタクロースの服、ケチャップ、三角コーン、赤べこ、パトカーのサイレン、神社の鳥居、赤本、国語辞典、パプリカ、ハート、達磨、唐傘、提燈、ネ フのロゴマーク、式号機、トマト、朱肉、解体された冷凍マグロ。

勿論、壁紙や床に敷かれた絨毯も鮮やかな緋色だ。

ある意味で幻想的なまでに赤い部屋だった。

そこで、ふと部屋の右端に意識が移った。

その一部分だけ、剥き出しのコンクリートのままで赤くないのだ。

気になって、近づく^ニと背後に気配を感じた。

「ソコハキミノバショナンドヨ」

しづきが派手に舞い散り、コンクリートを濡らした。

そして、その赤い部屋は本当の完成を迎えた。

赤（後書き）

次回、3月25日15時更新

白（前書き）

白といえば、あなたは何をイメージしますか？

白

しろ。

シロ。

白。

目を覚ませば、そこは真っ白な壁に囲まれた四角い部屋だった。

私は、ぽつんと置かれたベッドの上で寝ていた。

純白のシーツに、染みひとつない枕。まるで病院のベッドの様に。そして私の肌もこの何もかもが白い部屋と同じくらいに白かった。輪郭を感じさせない程に。

体には何も身につけていなかった。それどころか、髪の毛さえもなくなっていた。

私はなぜこんなところにいるのだろう。

思い出せない。

私の記憶も真っ白。自分の名前すらもわからない。

とりあえず体を起こす。とても気だるい。

私はあたりを見回した。

窓はおろか、扉さえも見当たらない。完全な密室。

そして床一面には無数の骨が散乱していた。

少しの肉片すらも付着していない、きれいな骨。

人間の頭蓋だけでなく、犬とおぼしき骨や牛の形をした巨大な骨が敷き詰められている。

「きゃあっ」

私は怖くなってシーツを頭から被った。

しかし、薄いシートから外が透けて見えてしまう。

やだ。何も見たくない。

私はぎゅっと目をつぶった。

この部屋には、ほぼ完全に白いものしか存在していない。存在してはいけないのだ。

しばらくして、私はこの部屋で唯一白くないものを自身の手で壊し、暗闇の世界を受け入れた。

白（後書き）

読了ありがとうございます
感想など頂けたら光栄です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8628r/>

三色

2011年10月8日22時01分発行